

かすかべの宝もの11

春季展示(収蔵品展11)

平成26年4月2日(水)～7月6日(日)



*昭和期の洋画家 岩井弥一郎



*昭和前期の大家作家 三上於菟吉

あいさつ

春日部市郷土資料館は、平成2年7月の開館以来、市民の皆さまのご協力をいただきまして、今日までに郷土に関わるさまざまな資料を調査・収集してきております。

皆さまからご寄贈・ご寄託を受けました資料は、郷土資料館でクリーニングを行い、展示や講座、学術調査などで活用できるよう、順次整理作業を進めております。しかしながら、これまで収集いたしました郷土の資料は膨大な数にのぼり、未だ整理が手つかずのものも少なくありません。

郷土資料館では、小さな空間ではありますが、わずかずつでも収蔵品を皆さまへ紹介していきたいと考え、これまでも10回にわたり収蔵品展を開催してまいりました。今回は、おもに平成25年度に収蔵・保管することになりました品々を紹介いたします。展示品は、春日部市出身の大家作家 三上於菟吉の書籍や洋画家 岩井弥一郎の作品など、大変価値の高いコレクション・作品をはじめ、江戸時代の関八州絵図、明治前期の水角学校の典籍、昭和39年の東京オリンピックゆかりの資料など、郷土春日部のみならず関東地方・日本全体の歴史と関わる品々です。ご観覧の皆さまには、貴重なコレクションをゆっくりと鑑賞していただき、また歴史の移り変わりについて心にとどめていただければ、たいへん幸いです。

平成26年4月

春日部市教育委員会
教育長 植竹 英生

展示資料一覧

展示資料数 実物・写真ほか 計 129 点

実物資料 113 点 / 写真ほか 16 点

1. 洋画家 岩井弥一郎

岩井弥一郎は大正から昭和にかけて活躍した洋画家です。油彩の静物画と風景画を多く制作しました。明治 31 年（1898）9 月 18 日、北葛飾郡豊野村赤沼で生まれ、豊野尋常小学校 2 年のときに両親とともに東京に移ります。下谷（現台東区）の理髪店で働きながら独学で絵を描き始め、画壇でも「理髪師の画家」として知られるようになりました。洋画家の牧野虎雄に認められ、のち仲間とともに昭和 26 年（1951）一線美術会を設立しました。日本美術展覧会（日展）の審査員もつとめ、昭和 39 年（1964）には日展の評議員となっています。昭和 43 年 1 月 27 日、69 歳で亡くなりました。お墓は、市内赤沼の常楽寺にあります。

展示品は親交があった方から寄贈された静物画と、お弟子さんから寄贈された風景画です。



- 1 昭和 28 年（1953）7 月 岩井弥一郎画 風景 倉沢康氏寄贈
- 2（年未詳）岩井弥一郎 デッサン画 倉沢康氏寄贈
- 3 昭和 32 年（1957）4 月 岩井弥一郎 江之浦にて（神奈川県小田原市）倉沢康氏寄贈
- 4 昭和 40 年（1965）岩井弥一郎 一線美術会 第 15 回記念展 倉沢康氏寄贈
- 5（年未詳）岩井弥一郎 色紙 倉沢康氏寄贈
- 6（年未詳）岩井弥一郎画 静物 小泉肇氏寄贈
- 7 洋画家 岩井弥一郎画歴 倉沢康氏寄贈

2. 大衆作家 三上於菟吉コレクション

三上於菟吉は、大正から昭和前期にかけて活躍した小説家です。「雪之丞変化」に代表される時代物の作品ほか、現代物の小説でも人気がありました。

明治 24 年（1891）2 月 4 日、中葛飾郡桜井村木崎で生まれ、桜井尋常小学校卒業後、旧制粕壁中学校（現県立春日部高校）へ進学します。少年時から本の虫であった於菟吉は、中学時代には積極的に文芸雑誌に作品を投稿します。小説家を夢見て上京、早稲田大学へ入り、宇野浩二、直木三十五ら未来の作家たちと親交を深めました。曲折を経つつも大正 10 年（1921）ごろから人気作家となり、昭和 9 年

(1934)には「雪之丞変化」を新聞に連載し大好評を得、翌年には松竹から映画化されました。しかし事故と病気が重なり活動は衰え、昭和18年北葛飾郡幸松村八丁目へ疎開、翌19年2月7日53歳で亡くなりました。

三上於菟吉の作品の魅力は、起伏にとんだストーリーと、人間の欲や情念を巧みに表現しているところにあります。代名詞といってよい「雪之丞変化」は、美形の歌舞伎役者雪之丞が親の敵を次々と葬っていく復讐劇です。古くは林長二郎（長谷川一夫）、美空ひばりらの主演で映画化され、最近では平成20年にNHK正月時代劇で放映されました（主演・滝沢秀明）。郷土ゆかりの作品では、西宝珠花を舞台とした昭和2年（1927）連載の「百万両秘聞」があります。このほか「わが漂泊」などの随筆も書いています。なお中学時代は、当時流行の自然主義文学に傾倒し、当初は純文学作家をめざしていました。

ところで、無名時代から三上於菟吉を支えたのは、女流劇作家長谷川時雨でした。昭和3年長谷川時雨が雑誌「女人芸術」を発行したときには、於菟吉は大いに援助をして恩に報いています。

※三上於菟吉関係の展示資料のうち寄贈者の表記のないものは個人コレクション（荏原コレクション）からの出品です。



＊作家 三上於菟吉

1（昭和前期） 晩年の三上於菟吉（写真）

2 大正4年（1915）11月 『早稲田文学』に掲載された三上於菟吉初期の作品「孤独」
早稲田文学社編輯所編

3（昭和9年・1934）5月 旅先の伊豆から講談社の編集者へ宛てた三上於菟吉の絵葉書

4 昭和11年（1936）正月 サイレン社の年賀状

5（年未詳）三上於菟吉の色紙

「紅燈のもとに うなだれ思ふこと わが若かき日は いづれにありや 本間君一祭 於菟吉」

6（年未詳）三上於菟吉の色紙

「酔 於菟吉 郎題 まん丸な お月さまさへ うらやましいと そねんですねたる うき雲に
ついとかくれてのぞき見は いちがわるいじや ないかいな」

7（年未詳）三上於菟吉の色紙

「於菟吉 葦原は かなしきものよ 風ふけば ふかるるままの 白き起きふし」

8(年未詳) 三上於菟吉実家の桐ダンス 館蔵

大正3年(1914)三上於菟吉の父純太郎が亡くなり、家督を継いだ於菟吉は木崎から一家を引き連れて上京しました。このとき、懇意にしていた酒屋に形見分けしたダンスです。抽斗の奥の隠し箱に、三上於菟吉のいたづら書きがあります。なお、実家の母屋は、大塚(現北葛飾郡杉戸町)の農家へ移され、今も使われています。

9(年未詳) 三上於菟吉実家の桐ダンスに入っていた金箱 館蔵

「 明治初年 「
金 箱 三上純太郎長男
五月 」 三上於菟吉 」

10(年未詳) 11月 於菟吉左筆の書簡

(封筒)「 講談くらぶ
萱原宏一様
三上生 」

(本文)「富士の方中森君に御
迷わくをかけてゐる最中
何しろ手無し男閉々
口々。こないだは逍遙
詩集ありがたう。
二三日中に日の出もすみ
ます。ゆっくり逢いたい
ですね。
御自愛専一 於菟吉左筆
十一月十八日
萱原大兄 御几下 」

*三上於菟吉の代表作

- 11 昭和11年(1936) 1月 雪之丞変化 サイレン社
- 12 昭和22年(1947) 6月 百万両秘聞 新文社
- 13 昭和27年(1952) 4月 雪之丞変化 上巻 春陽堂書店
- 14 昭和27年(1952) 4月 雪之丞変化 下巻 春陽堂書店
- 15 昭和32年(1957) 12月 美空ひばり主演映画告知の帯付の雪之丞変化 上巻 同行社出版
- 16 昭和52年(1977) 5月 百万両秘聞 土屋書店
- 17 漫画版の雪之丞変化 第一巻 東京金園社発行
- 18 漫画版の雪之丞変化 第二巻 東京金園社発行
- 19 昭和3年(1928) 4月 現代長篇小説全集9 三上於菟吉集 日輪・白鬼 新潮社
- 20 昭和10年(1935) 7月 三上於菟吉全集 第一巻 雪之丞変化 平凡社
- 21 昭和10年(1935) 8月 三上於菟吉全集 第二巻 激流 平凡社
- 22 昭和10年(1935) 9月 三上於菟吉全集 第三巻 愛憎秘刃録・雪之丞変化(続編) 平凡社

- 23 昭和10年(1935) 10月 三上於菟吉全集 第四卷 千姫・敵討三都錦絵 平凡社
- 24 昭和10年(1935) 11月 三上於菟吉全集 第五卷 日輪 平凡社
- 25 昭和10年(1935) 12月 三上於菟吉全集 第六卷 白鬼・熱風 平凡社
- 26 昭和11年(1936) 1月 三上於菟吉全集 第七卷 清河八郎 平凡社
- 27 昭和11年(1936) 2月 三上於菟吉全集 第八卷 太陽の娘・都会獣 平凡社
- 28 昭和11年(1936) 3月 三上於菟吉全集 第九卷 燃える処女林・闇を破る 平凡社
- 29 昭和11年(1936) 4月 三上於菟吉全集 第十卷 淀君 平凡社
- 30 昭和11年(1936) 5月 三上於菟吉全集 第十一卷 見果てぬ夢 平凡社
- 31 昭和11年(1936) 6月 三上於菟吉全集 第十二卷 源三郎異変・百万両秘聞 平凡社

＊上演・上映された於菟吉作品

- 32 (昭和34年・1959) 東映映画のしおり 雪之丞変化
- 33 昭和2年(1927) 9月 岡田嘉子一座の旗上げ公演のチラシ 三上於菟吉作「炎の空」を上演
- 34 大正15年(1926) 7月 三上於菟吉作「死を越ゆる」劇場公演チラシ 大須境内宝生座

＊三上於菟吉と小説全集

- 35 昭和2年(1927) ごろ 平凡社『現代大衆文学全集』の広告
- 36 昭和4年(1929) 5月ごろ 平凡社『明治大正実話全集』の広告
- 70 昭和10年(1935) ごろ 平凡社『大衆文学名作選』の広告

＊作品一現代物

- 37 大正11年(1922) 10月 痴人の成立 第一部 愛欲の霧 天祐社
- 38 大正13年(1924) 10月 地上の愛 榎本書店
- 39 昭和2年(1927) 6月 炎の空 前篇 新潮社
- 40 昭和2年(1927) 11月 炎の空 中篇 新潮社
- 41 昭和3年(1928) 1月 炎の空 後篇 新潮社
- 42 昭和5年(1930) 10月 長編三人全集(9) 見果てぬ夢・銀座事件 山口孝子氏寄贈
- 43 昭和15年(1940) 9月 燃える処女林 金鈴社
- 44 昭和17年(1942) 7月 地平線の彼方 新興亜社
- 45 昭和22年(1947) 10月 炎を踏む女 鷺書房

＊作品一時代物

- 46 大正15年(1926) 3月 伝記 敵討日月双紙 上巻 朝日新聞社版
- 47 昭和2年(1927) 6月 妖日山海伝 上巻 朝日新聞社
- 48 昭和4年(1929) 9月 火刑 平凡社
- 49 昭和9年(1934) 10月 直木三十五と三上於菟吉の共著 相馬大作 改造社
- 50 昭和13年(1938) 2月 青空無限城(再版本) サイレン社
- 51 昭和14年(1939) 10月 むらさき草紙 興亜書房
- 52 昭和14年(1939) 11月 鴛鴦呪文 春陽堂書店
- 53 昭和15年(1940) 10月 愛憎秘刃録 前篇 博文館文庫 博文館
- 54 昭和23年(1948) 2月 淀君 愛憎の巻 新文社

55 昭和23年(1948) 2月 淀君 情炎の巻 新文社

56 昭和23年(1948) 8月 千姫 新文社

***作品—その他(翻訳など)**

57 大正10年(1921) 7月 子どもの聞きたがる新知識の庫 実業之日本社

58 大正11年(1922) 11月 カーティス・ヨーク作 三上於菟吉訳 嘆ける 曙 聚英社

59 大正11年(1922) 5月 カーティス・ヨーク作 三上於菟吉訳 嘆ける 曙 聚英社

60 大正13年(1924) 9月 エミール・ゾラ作 三上於菟吉訳 怖ろしき夢魔 獣人 国民教育普及会

61 昭和21年(1946) 5月 コナン・ドイル作 三上於菟吉訳

シャーロックホームズの帰還(再版本) 平凡社

62 昭和21年(1946) 6月 コナン・ドイル作 三上於菟吉訳

シャーロックホームズの記憶(再版本) 平凡社

***三上於菟吉と長谷川時雨**

63 昭和4年(1929) 9月 長谷川時雨 時雨脚本集1 女人芸術社

64 昭和10年(1935) 2月 長谷川時雨 旧聞日本橋 岡倉書房

65 昭和10年(1935) 7月 長谷川時雨 草魚 サイレン社

66 (昭和12年・1937) 1月 長谷川時雨の書簡

67 (年未詳) 長谷川時雨の短冊

「灯ともさぬ 軒ぢやうちは わが命 きえしやうにも はかなかりしか 時雨」

68 (年未詳) 長谷川時雨の短冊

「松は千載 つるは千代 めでたしと ぢしんこくみん 祝ひもふさく 時雨」

69 (年未詳) 三上於菟吉の短冊

「闇にとく 君がくる髪ひえゞと 夜半には夏の ゆくころかな 於菟吉」

3. 昭和39年 東京オリンピック

平成25年(2013)9月8日、IOC(国際オリンピック協会)の総会で、2020年東京で夏季オリンピック・パラリンピックを開催することが決まりました。東京でオリンピックが開かれるのは2回目のことです。昭和39年(1964)に、アジアで初めて東京オリンピックが開かれました。実は昭和15年(1940)に東京でオリンピックが開始される予定でしたが、日中戦争が激化していたため、中止になったということがありました。

展示の品々は、東京オリンピックの代表ブレザー製作に関わった方や、東京オリンピックを観覧された方から寄贈されたものです。



- 1 昭和39年(1964) 東京オリンピック記念風呂敷 佐野進氏寄贈
- 2 昭和39年(1964) オリンピック東京大会 日本陸上競技後援会記念メダル 佐野進氏寄贈
- 3 昭和39年(1964) 東京オリンピック記念 金杯 佐野進氏寄贈
- 4 昭和39年(1964) LPレコード オリンピック東京大会/1964 NHK放送より
佐野進氏・折原嘉一郎氏寄贈
- 5 昭和39年(1964) 東京都交通局記念乗車券 オリンピック東京大会 折原嘉一郎氏寄贈
- 6 昭和39年(1964) 10月 チケット 第18回東京オリンピック競技大会
蹴球(サッカー)/国立競技場 折原嘉一郎氏寄贈
- 7 昭和39年(1964) 100円硬貨 東京オリンピック記念 折原嘉一郎氏寄贈
- 8 昭和39年(1964) 11月 アサヒグラフ増刊 東京オリンピック 折原嘉一郎氏寄贈

4. 歴史の歩み

このコーナーでは、昨年度の寄贈品を時代別に展示しています。いずれも、郷土の歩み、関東地方や日本の歴史が刻まれた品々です。

江戸時代の展示品は、関東地方の絵図、粕壁宿と近隣村々の交通に関する古文書、河川の治水についての古文書、商家の道具、農村に伝わった書籍、西金野井香取神社の祭礼に関する資料などです。

明治時代の展示品は、明治維新後の高札、水角学校の教科書、市内永沼から修善寺・熱海への旅行記など。昭和時代の展示品は、戦争関係のもの、戦前・戦後の南桜井小学校記念写真や、昭和40年代の豊春駅付近の写真などです。

(1) 江戸時代

1 慶応3年(1867) 6月 西金野井香取神社 祭礼文書箱 西金野井香取神社氏子会寄託

西金野井香取神社には、市指定文化財である朱印状をはじめ、江戸時代からの古文書や歴史資料が伝わっています。この箱は、神社と村のお祭りに関する帳簿を保管していたものです。箱の上蓋の裏に、慶応3年(1867)6月19日に、祭礼を執行する西金野井村の中の8組(馬場・久保・新田・原組・花輪・畑ケ中・越中内・作之内)の世話人から、神社の氏子中へこの箱と帳簿を引き渡したと記されています。

2 寛政8年(1796) 9月 村々若衆華控帳(西金野井若者中大角力勸進)

西金野井香取神社氏子会寄託

西金野井村の若者仲間が企画した勸進相撲の、花代(御祝儀)を記録した帳簿です。

3 明治6年(1873) 8月 西金野井香取神社獅子諸掛り控帳 西金野井香取神社氏子会寄託

西金野井香取神社で奉納される獅子舞の諸費用を記録した帳簿です。白米・醤油・唐茄子・酒・とうふ・半紙・ろうそくなどの代金が記されています。西金野井の獅子舞は、現在埼玉県指定の無形民俗文化財に指定されています。

4 明治21年(1888) 7月 西金野井香取神社獅子修復帳 西金野井香取神社氏子会寄託

西金野井香取神社で奉納される獅子舞の諸道具を修復したときの費用などを記録した帳簿です。前縄・天狗神・麻絹・装束の代金と、その負担割りが記されています。獅子舞の世話役である年番行事くんにんぐみの連名があります。

5 嘉永6年・7年写 (1853・1854) 慶安太平記 (一) ~ (四) 大川明弘氏収集資料

慶安事件を題材とした江戸時代の小説です。慶安事件は、3代将軍徳川家光の死後、兵学者由井正雪らが中心となり、江戸幕府に不満を持つ浪人たちを集めて幕府転覆を企てた事件です。この本は、不動院野村の栗原佐市が写して、希望者に貸し出していたもので、農村への文字文化の広まりを示しています。末尾に、「どこへ貸しても、必ず返してください。」という断り書きがあります。

6 文化4年 (1807) 句集 大川明弘氏収集資料

下総国を中心とした俳句連の句集です。江戸川の河岸として栄えた西宝珠花の俳人たちである「下総宝珠花 柳下連」の隣江・桂浦・清月・箕山・梟彦・素牛らの句が載っています。

7 天保14年 (1843) 文化年中 御伝馬一件济口証文写シ 宮内正勝氏収集資料

文化4年 (1807) に粕壁宿と助郷村々との間で起きた争論の示談書を写したものです。日光道中の宿場町であった粕壁宿は、公用の旅行者へ対し人足や馬を負担する「伝馬役」という義務を負っていました。宿場で人馬が不足したときには、宿場近くの村々から人馬を提供する決まりで、これを「助郷」といいました。人馬の割り当てをめぐる、宿場と助郷の村々は対立することがあり、文化の助郷争論では、新たな人馬負担のルールが決められました。そのルールは、本来粕壁宿の負担であった50人50疋のうち15人15疋を余荷助郷として、助郷村々の負担とすることでした。

8 天明8年~寛政11年 (1788~1799) 江戸川水防見廻役申渡ほか諸書付写 榎田武夫氏収集資料

金崎村名主であった石川伝兵衛に関わる古文書です。天明3年 (1788) の浅間山噴火の影響などにより、利根川の中流・下流域や江戸川・庄内古川 (中川)・古利根川などの流域では、河川や農業用水路・悪水 (排水) 路の流れが悪くなり、天明6年には古利根川が、寛政5年 (1793) には権現堂川・江戸川が決壊します。こうした頻発する洪水への対策として、寛政7年8月に江戸幕府は、堤防や水流を巡視・管理する「水防見廻役」という役目を設け、金崎村の名主石川伝兵衛と日光道中幸手宿名主・本陣の知久文左衛門を水防見廻役に命じました。

9 慶応2年 (1866) 11月 銭升 (一朱銀) 中村義昭氏寄贈

お金 (硬貨) を勘定する枡です。この枡は一朱銀を数えます。一朱銀16枚で金1両となります。

10 (近世) 嵯峨御所 御用札 小川守氏寄贈

お菓子献上の御用札と伝えています。詳細は不明です。嵯峨御所は京都の旧嵯峨御所大覚寺のことでしょうか。今後の精査が必要です。背面には「嵯峨御所御用之印」の焼印があり、「総州葛飾郡永沼村権兵衛」と書かれています。

11 (参考) お札 第六天神社 (さいたま市岩槻区大戸) 岩田静代氏寄贈

火防・盗賊除・疫病除などに効果があると伝えられる大戸の第六天神社のお札と絵馬です。絵馬は第六天神社の眷属 (神仏の従者のこと) である天狗が向き合う、「向かい天狗」の絵柄です。春日部市内のお宅の玄関に掲げられていたもので、江戸時代から続く信仰が、現代でも続いていることがわかります。

12 (参考) 小絵馬 (向い天狗) 第六天神社 (さいたま市岩槻区大戸) 岩田静代氏寄贈

13 天保5年以降 (1834~) 関東八国輿地路程全図 湯崎憲一氏寄贈



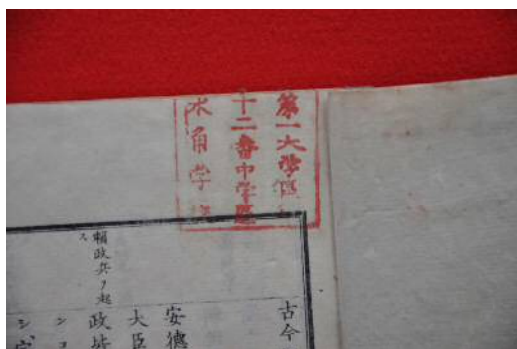
(2) 明治時代

14 明治3年(1870) 太政官高札(徒党・強訴禁止) 榊田武夫氏収集資料

高札は、江戸時代に幕府や領主の禁令や法令などを木札に墨書きして、宿・村の高札場に立てて、人々に周知したものです。明治維新後も、明治政府の太政官の高札が掲げられていましたが、明治6年2月に原則撤去されることとなりました。この高札が掲げられていた村はわかりませんが、人々を扇動して集めて、政府へ対し種々の訴えをおこすこと(徒党・強訴)を禁じたものです。

15 明治12年(1879) 1月 水角学校で使われた教科書 古今紀要(一)～(四) 小川守氏寄贈

水角学校は、明治8年(1875)から明治22年(1889)まで水角地区の永喜寺(現廃寺)にあった小学校です。この本は埼玉県で出版した歴史の教科書で、「第一大区第十二番中学区水角学校」の蔵書印があり、裏表紙に「水角学校」と書かれています。



16 明治25年(1892) 4月写 明治16年4月～5月 修善寺・熱海温泉紀行 小川守氏寄贈

明治16年(1883)4月7日から5月2日まで、伊豆修善寺、熱海方面に旅行した染谷保次郎が記した旅行記です。明治25年に永沼の小川永里が写しました。自宅から車(馬車?)で午前9時10分に出発、粕壁へ出て、東京に向かって日光街道を南下、10時30分に大沢(現北越谷)着、越谷を経て11時30分に草加着、千住(現北千住)で東京方面の馬車に乗り換え午後2時30分東京着。翌8日7時30分人力車で新橋に行き、9時25分汽車に乗り、10時には神奈川へ到着し馬車で小田原方面に向っています。このとき粕壁一備後間の風景を「粕壁宿ヲ経テ沿道備後村ニ至リ、東中川(*古利根川)ヲ隔テ藤塚村ヲ望メハ、桃蕾紅ヲ含デ将ニ綻ントシ、紛トシテ雲霞ノ如シ」と、桃の花咲く直前の景色を記しています。

(3) 昭和時代 戦争関係資料

17 昭和7年～20年(1932～1945) 軍隊手牒 内田孝信氏寄贈

軍人勅諭が書かれ、出身地や軍歴などが記入された、召集された兵士が持つ手帳です。明治44

年（1911）生まれの現川口市出身の方のものでした。昭和7年～10年、12年～13年、19年～20年に召集されており、終戦時は小笠原諸島母島（現東京都）の警備にあたっていました。

18 昭和13年（1938）^{じゅうぐんきねん} 従軍記念の杯 ^{さかづき} 内田孝信氏寄贈

大・中・小あり、^{さかづき} 杯には「贈内田末五郎殿 新富町一丁目町会」と書かれています。

19 昭和20年（1945）10月 住所録 内田孝信氏寄贈

部隊の同僚の住所録でしょうか？春日部町三枚橋の方の名も見えます。

20 昭和13年（1938）2月 ^{しなじへんしゃしんぜんしゅう} 支那事変写真全輯 中 ^{しゃんはいせんせん} 上海戦線 内田孝信氏寄贈

（4）昭和期の写真



21 昭和前期（1926～1945）南桜井尋常高等小学校 記念写真 岩田静代氏寄贈

22 昭和20年代（1945～1954）南桜井小学校記念写真（場所不詳） 岩田静代氏寄贈

23 昭和29年（1954）南桜井小学校 卒業写真 岩田静代氏寄贈

24 昭和30年（1955）牛島付近の県道（ユタカ商会付近） 岩田静代氏寄贈

25 昭和30年（1955）牛島付近の県道（ユタカ商会付近） 岩田静代氏寄贈



26 昭和初期（参考）上野動物園（キリン） 岩田静代氏寄贈

27 昭和40年代（1965～1974）豊春駅前 折原嘉一郎氏寄贈

28 昭和40年代（1965～1974）東武鉄道野田線豊春駅手前 Y字ポイント 折原嘉一郎氏寄贈

29 昭和40年代（1965～1974）岩槻新道 豊春駅入口交差点 折原嘉一郎氏寄贈

30 昭和40年代（1965～1974）東武鉄道野田線豊春駅 駅舎 折原嘉一郎氏寄贈

31 昭和40年代（1965～1974）東武鉄道野田線豊春駅 構内 折原嘉一郎氏寄贈

32 昭和40年代（1965～1974）東武鉄道野田線豊春駅付近 駐輪場 折原嘉一郎氏寄贈



5. 体験コーナー

- 1 火のし 大川明弘氏収集資料
- 2 炭火アイロン 山口つや子氏寄贈
- 3 和鏡 山口つや子氏寄贈
- 4 わらぞうり 山口つや子氏寄贈
- 5 昭和期 五玉そろばん 岩田静代氏寄贈

*参考資料 展示資料関連年表（1）江戸時代

和暦	西暦	展示資料に関連したできごと
天正18年	1590	戦国大名の小田原北条氏が豊臣秀吉によって滅ぼされ、徳川家康が関東地方を治め、江戸（現東京）を本拠とする。
天正19年	1591	下総国葛飾郡金井郷（西金野井）香取神社へ対し、徳川家康が寺領10石を寄付する。
慶長8年	1603	徳川家康が征夷大将軍に任じられ、江戸幕府が成立。
慶長16年	1611	代官伊奈忠治により、粕壁宿の町並みが造成されたと伝える。
寛永17年	1640	このころ、江戸川が開削される。これにともない、西金野井香取神社の社領（御朱印地）が河川敷となったので、代替えとして翌年下金崎村に社領を移す。江戸川に流れ着いた獅子頭を起源とする西金野井の獅子舞の伝説。
慶安4年	1651	3代将軍徳川家光死去。幕府に不満を持つ由井正雪・丸橋忠弥ら浪人が江戸幕府転覆を企てるが未遂に終わる（慶安事件）。
元禄3年	1690	幕府によって年貢米の船賃調査が行われ、江戸川付の宝珠花河岸が調査対象となる。
享保元年		徳川吉宗が8代将軍となる（享保の改革）。
享保8年	1723	粕壁宿へ人馬を提供する助郷を、粕壁宿周辺の26か村が命じられる。
享保13年	1728	人馬の遣い方をめぐり粕壁宿と助郷村々が争論となり、基準が決められる。
寛保元年	1741	粕壁宿の助郷村々が周辺29か村に変更される。
天明3年	1783	浅間山が噴火。利根川中・下流域の河川は火山灰により川床が高くなり、洪水がおきやすくなる。
天明6年	1786	古利根川・権現堂堤・江戸川が決壊し、春日部付近は洪水となる。粕壁宿の差配役見川喜蔵が、貧民を救済した。。
天明7年	1787	松平定信が老中となる（のち寛政の改革を推進）。
寛政3年	1791	大雨で粕壁宿の大橋（新町橋）が流失する。
寛政5年	1793	権現堂堤・江戸川が決壊し、洪水となる。
寛政7年	1795	幕府が利根川などの洪水対策として、下総国葛飾郡金崎村と武蔵国葛飾郡幸手宿の名主を水防見廻り役に任命する。
文化4年	1807	粕壁宿と助郷村々との間で人馬の割り当てをめぐり争論となる。宿場負担の人馬50人50疋のうち15人15疋が助郷村の負担となる。
天保12年	1841	老中水野忠邦により、天保の改革が始まる。
嘉永6年	1853	ペリー来航。
慶応3年	1867	大政奉還。

*参考資料 展示資料関連年表（2）明治～昭和中期

和暦	西暦	展示資料に関連したできごと
明治元年	1868	戊辰戦争。五カ条の御誓文が發布される。明治政府により、村々に五榜の掲示が掲げられる。
明治 3年	1870	徒党・強訴禁止の明治政府の高札が掲げられる。
明治 4年	1871	廃藩置県。
明治 5年	1872	学制が發布される。粕壁宿最勝院に粕壁学校が開校。以後、おおよそ江戸時代の村ごとに、市域で小学校が開かれる。新橋－横浜間に鉄道が開通。
明治 6年	1773	南桜井小学校の前身である下柳学校が、明清寺にできる。
明治 8年	1785	前年(明治7年)開校の永沼・水角両村が連合して開かれた永沼学校が分かれて、水角学校が永喜寺(現廃寺)にできる。
明治19年	1986	下柳小学校を現在の南桜井小学校の場所に移転。下柳尋常小学校と改称。総葛高等小学校を併設(明治23年下柳尋常小学校に合併、下柳尋常高等小学校と改称)。
明治21年	1888	大宮－粕壁間県道(岩槻新道)ができる。
明治22年	1889	市制町村制が施行され、現在の市内各地区の元(一部を除く)となる町・村が成立する。粕壁町、内牧村、豊春村、武里村、幸松村、豊野村、桜井村、宝珠花村、富多村、南桜井村、川辺村が成立。小学校は、この町村を単位に学区とすることになる。水角学校は赤崎・中野両学校と合併し、東中野歓喜院に川辺尋常小学校が設立される。
明治27年	1894	日清戦争(～明治28年)。
明治32年	1899	東武鉄道が北千住－久喜間に開通。
明治37年	1904	日露戦争(～明治38年)。
明治42年	1909	下柳尋常高等小学校を南桜井尋常高等小学校と改称。
大正 3年	1914	第一次世界大戦に参戦(～大正7年)。
大正12年	1923	関東大震災。
昭和 5年	1929	総武鉄道(現東武鉄道野田線)大宮－粕壁間開通。翌昭和6年粕壁－清水公園間開通。
昭和12年	1937	日中戦争始まる。
昭和16年	1941	アジア太平洋戦争始まる。すべての尋常・高等小学校を国民学校と改称する。
昭和19年	1944	内牧村と粕壁町が合併し春日部町になる。
昭和20年	1945	アジア太平洋戦争終わる。
昭和22年	1947	小学校6年・中学校3年の教育制度となり、国民学校を小学校と改称。
昭和29年	1954	町村合併促進法により旧春日部市と旧庄和村ができる。粕壁地区に水道敷設。春日部駅前に街頭テレビが置かれる(テレビ放送は昭和28年より)。
昭和35年	1960	カラーテレビ放送が始まる。
昭和39年	1964	武里団地の建設が決定する。東海道新幹線開通。東京オリンピックが開催される。旧庄和村が旧庄和町になる。
昭和41年	1966	武里団地の入居が始まる。北春日部駅開業。地下鉄日比谷線の乗り入れが北春日部駅まで延伸。



三上於菟吉『百萬両秘聞』の舞台「幽霊野」